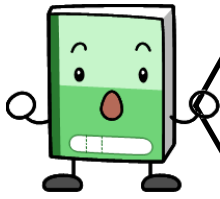


「指導と評価の一体化」のための学習評価（小学校生活科のポイント）【R2 NEW】



○「知識・技能の基礎」を評価するに当たっては、
 ① **気が付きが自覚されること**、② **個別の気が付きが相互に関連付くこと**、③ **対象のみならず自分自身についての気が付きが生まれること**を気が付きの質の高まりとして見とることが大切です。
 また、生活上必要な習慣や技能については、特定の習慣や技能を取り出して指導するのではなく、思いや願いを実現する過程において身に付けていくものであることに留意する必要があります。

○「思考力・判断力・表現力等の基礎」を評価するに当たっては、① **見付ける**、② **比べる**、③ **たとえる**、などと示された分析的に考えること、④ **試す**、⑤ **見通す**、⑥ **工夫する**、などと示された創造的に考えることを踏まえる必要があります。

○生活科における「学びに向かう力、人間性等」を評価するに当たっては、
 ① **「粘り強さ」**・・・思いや願いの実現に向かおうとしていること
 ② **「学習の調整」**・・・状況に応じて自ら働きかけようとしていること
 ③ **「実感や自信」**・・・意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする
 ことを繰り返し、安定的に行おうとしていること
 などを踏まえる必要があります。
 【R2 NEW】では、評価方法がさらに詳しくなりました。

単元名
いきもの 大すき

内容のまとめり
第2学年 内容（7）「動植物の飼育・栽培」

1 単元（題材）の目標

（ア）モルモットを飼育する活動を通して、（イ）モルモットの変化や成長の様子に関心をもって働きかけ、（ウ）モルモットに合った世話の仕方や生命をもっていることや成長していることに気が付き、（エ）モルモットへの親しみをもち、生き物を大切にすることができるようにする。

※ ここで示す例では、単元全体を見通して総括的に目標を示すとともに、以下の（ア）～（エ）の4つの要素を構造的に配列し、単元の目標を作成しています。

（ア）単元において中心となる学習対象や学習活動 （イ）「思考力、判断力、表現力等の基礎」
 （ウ）「知識及び技能の基礎」 （エ）「学びに向かう力、人間性等」

※ 生活科において単元を構成するに当たっては、一単元を一内容で構成する場合と、一単元を複数内容で構成する場合があります。複数内容を組み合わせて単元を構成する場合は、各内容に示された資質・能力の一部が単元から欠けることがないように留意が必要です。

2 単元の評価規準

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の 評価規準		モルモットを飼育する活動を通して、モルモットに合った世話の仕方があることや生命をもっていることや成長していることに気付いている。	モルモットを飼育する活動を通して、モルモットの変化や成長の様子に関心をもって働きかけている。	モルモットを飼育する活動を通して、モルモットへの親しみをもち、生き物を大切にしようとしている。
小 単 元	1 ↓	① モルモットの特徴、変化や成長の様子に <u>気付いている</u> 。 (知識)		① 元気に育てたい、仲良くなりたいという <u>思いや願い</u> をもって、モルモットに <u>関わろうとしている</u> 。 (粘り強さ)

における評価規準	2	② モルモットも自分たちと同じように生命をもっていること、成長すること、モルモットに合った世話の仕方があることに <u>気付いている</u> 。 (知識) ③ モルモットを適切な仕方で <u>世話をしている</u> 。 (技能)	① モルモットの変化や成長の様子に着目したり、モルモットの立場に立って関わり方を見直したりしながら、 <u>世話をしている</u> 。	② モルモットに心を寄せ、 <u>モルモットの様子に合わせて、繰り返し関わろうとしている</u> 。 (学習の調整)
	3	④ モルモットへの親しみが増し、上手に世話ができるようになったことに <u>気付いている</u> 。	②モルモットとの関わりを <u>振り返りながら</u> 、世話を <u>して気付いたこと</u> やモルモットへの思い、自分自身の成長を <u>表現している</u> 。	③モルモットとの関わりが増したことに <u>自信をもち、関わり続けようとしている</u> 。 (実感や自信)

「知識・技能」のうち、知識については、「～に気付いている」「～が分かっている」、技能については、「(学習活動)において、～している」などとして評価規準を作成します。

「思考・判断・表現」については、「～しながら、～している」などとして評価規準を作成します。

「主体的に学習に取り組む態度」については、「～し、～しようとしている」などとして評価規準を作成します。

3 指導と評価の計画 (全16時間)

小単元名 (時間)	ねらい・学習活動	評価規準	評価方法
1 見てさわってなかよし大きくせん (4)	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生からモルモットの飼育を依頼され、話し合う。 ・獣医師から、モルモットについての話を聞き、モルモットと関わる上で、気を付けなければならないことを知る。 ・モルモットに触れたり、えさを与えたり、一緒に遊んだりしながら、モルモットを観察する。 	態① 知①	<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察や発言分析、観察カードの分析 ・<u>観察カードの分析、発言分析</u>

【知識・技能①】
 ・モルモットの特徴、変化や成長の様子に気付いている。

【具体的な児童の姿の例】
 ・感触、身体的特徴、行動面の特徴、性格や嗜好など、様々な視点から気付いたことを書いている。
 ・モルモットのしぐさや鳴き声など、気付いたことを詳しく書いたり発言したりしている。
 ・モルモットと自分との関わりについて、気付いたことを書いたり発言したりしている。

<p>2 お世話でなかよし大きくせん(7)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・モルモットの飼育環境やえさ、世話の仕方などを調べる。 ・モルモットの様子に合わせて、世話の工夫を工夫する。 ・モルモットを飼育して、気付いたことや感じたことを絵や文で表現したり、友達に伝えたりする。 	<p>知② 思① 知③</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発言分析、調べ活動のメモの分析 ・行動観察、発言分析、モルモット日誌の分析 ・<u>行動観察やモルモットの世話の記録の分析、発言分析</u>
<p>【思考・判断・表現①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モルモットの変化や成長の様子に着目したり、モルモットの立場に立って関わり方を見直したりしながら、世話をしている。 <p>【具体的な児童の姿】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モルモットの食べ具合を見て、えさの種類や量を調節している。 ・モルモットの様子を見ながら、嫌がらないようになでたり、だっこしたりしている。 ・モルモットの立場に立って考え、モルモットが気持ちよく過ごせるように世話をしている。 ・世話の過程で起きた問題の改善に向けて、世話の仕方を変えている。 ・世話の仕方を獣医師や上級生に聞いたり本で調べたりしている。 			
<p>3 ぼく・わたしとモルモット(5)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでのモルモットの飼育活動を振り返る。 ・世話をして気付いたことやモルモットへの思い、自分自身の成長を、モルモットの本に表現する。 	<p>知④ 態③</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・作品（モルモットの本）や発言分析 ・<u>作品（モルモットの本）や発言分析、行動観察</u>
<p>【主体的に学習に取り組む態度③】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モルモットとの関わりが増したことに自信をもち、関わり続けようとしている。 <p>【具体的な児童の姿】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モルモットとの関わりを通して得られた喜びや自信を表現している。 ・生き物に対して、これからも大切にしたり関わり続けたいという気持ちを表現している。 			